

総務経済委員会所管事務調査

市内指定避難所の視察について(報告)

実施日：令和8年5月14日(木)

総務経済委員会 浅田 藤二

- ① 旧大東小学校
 - ・ 体育館内の雨漏りの修繕に2,500万円の費用がかかる。
 - ・ 2階のコミュニティールームや用務員の宿舎などに手を加えて避難所とすることが、体育館の雨漏り修繕よりも費用負担も少なく、避難者の受け入れができると感じた。
 - ・ 近隣の地区役員と現状を確認し、早急に避難者の受け入れについて結論を出していくことが住民の安心につながる。
- ② 八岳コミュニティーセンター
 - ・ 改築が終了し素晴らしい施設になっていた。畳なども用意され避難者に配慮がされていた。
- ③ ふらっと月ヶ瀬
 - ・ 安心して避難できる場所と感じた。受け入れについて、施設側も体制を整えていると感じた。
- ④ 天城湯ヶ島コミュニティー複合施設 市民活動センター体育館
 - 夏の暑さ、冬の寒さは体育館ではつらいので、市民活動センターの会議室の活用が必要だと感じた。

総務経済委員会所管事務調査 報告書

総務経済委員会 森良雄

視察の報告書です

旧大東小学校の体育館では雨漏りがするようです。

雨漏りを補修するには2,000万円の修理費がかかるようで、修理するつもりはないようです。

地元の方は修理を希望しているようですが市は修理をしないようです。

かと言って新しいものを作くれる気もないようです。

このまま使えというのか壊すのかはわかりません。

どうも壊すようですがはっきりと近隣の方に話すべきでしょう。

雨漏り一つ補修できない伊豆市ではありません。

避難所が必要なら速やかに雨漏りを直し使えるようにすべきでしょう。

話は変わって、他の新しい避難所は素晴らしいです。

どうしたらこんな素晴らしい避難所ができるのでしょうか。

長期避難場所としては設備が不足です。

短期の一時避難所なのかな？

天城湯ヶ島の施設は立派です。

運営責任者次第で利用者が嬉々としているようです。

運営責任者に人を得たようです。

総務経済委員会 令和8年『所管事務調査』2026.05.14

【参加報告書】

総務経済委員会 尾垣 和則

令和8年5月14日(木) 8:30~11:40

『所管事務調査』を以下の施設において行った。

(調査番号)	(施設名)	(所在地)	(避難収容可能人数)
1.	旧大東小学校体育館	徳永 900	267 人
2.	八岳コミュニティセンター	原保 384	36 人
3.	ふらっと月ヶ瀬	月ヶ瀬 408-1	198 人
4.	天城湯ヶ島コミュニティ複合施設		
	市民活動センター 体育館	湯ヶ島 136	242 人

※収容可能人数は、延床面積/3.3 m²に 1 人を基に算出

.....

・上記の指定緊急避難場所および指定避難場所を調査する。

調査番号1は、老朽化しており、体育館においては以前から数か所の多数の雨漏りが発生中。この修繕見積額は約2,500万円、ここを利用する地元地域の住民からは、早期補修依頼の声が挙がっている。

- ・調査番号2のような以前の老朽建物(校舎・体育館)を解体し、残る建物のリニューアルと元校庭のヘリポートとしての活用は目を見張る活用事例と感じた。
- ・調査番号3、4は地域でも喜ばれる施設として普段から活用されており、いざ災害発生時にはとても有効な避難場所として活用できると期待できる。

本市において、災害時の避難場所の数の確保は出来ているものの、その施設の内部・外部の使い方及び避難時の運用の仕方について、大きく検討をする必要性を感じた。

以上

総務経済委員会 所管事務調査報告書

「市内指定避難所の現地視察について」

総務経済委員会 波多野 靖明

調査日:令和8年5月14日

1・視察箇所

施設名	所在地	収容可能 人数
旧大東小学校体育館	徳永 900	267 人
八岳コミュニティセンター	原保 384	36 人
ふらつと月ヶ瀬	月ヶ瀬 408-1	198 人
天城湯ヶ島コミュニティ複合施設、市民活動センター、体育館	湯ヶ島 136	242 人

収容可能人数は、延床面積 3.3 平方メートル当たり1人を基準

ただし、実際の避難所運営においては、通路、受付、要配慮者スペース、体調不良者の隔離スペース、荷物置場等を確保する必要があることから、実収容人数は面積上の人数を下回ることが見込まれている。(配布資料より)

令和元年の台風 19 号時の避難者数は、旧大東小学校体育館 30 人、八岳集会場 44 人、ふらつと月ヶ瀬 52 人、天城湯ヶ島コミュニティ複合施設市民活動センター体育館 114 人であったと説明があった。

2・調査

旧大東小学校体育館については、雨漏りや外壁の劣化など、施設の老朽化が課題として確認された。全面的な防水及び外壁補修を行う場合、数年前の試算で約 2,500 万円を要し、現在では物価高騰によりさらに費用が増加する可能性があるとの説明があった。

一方で、校舎内の一部教室や2階コミュニティルームを代替スペースとして活用する可能性も示された。令和元年台風 19 号時の避難者数が 30 人であったことを踏まえると、風水害時の短期避難においては、体育館全体を使用しなくても対応できる場合があると考えられる。しかし、大規模地震等を想定した場合には、広い避難スペースを確保しておく必要性も高く、施設の維持、修繕、代替利用について慎重な検討が求められる。

八岳コミュニティセンターは、旧八岳小学校のコンピューター棟を改修した施設であり、令和 8 年 6 月 1 日からの利用開始に向けて調整中とのことであった。空調、LED 照明、水道、IH ミニキッチン、持ち運び可能な畳、男女別トイレ及びバリアフリー対応トイレが整備されており、避

難所として一定の機能を有していることを確認した。一方、2階への階段については、幅や段差の高さに対する指摘があり、高齢者や要配慮者の利用に当たっては配慮が必要である。また、グラウンドはヘリコプターの離着陸が可能であることも確認された。

ふらっと月ヶ瀬は、市が直接管理する施設ではないものの、災害時には施設管理者と連携して開設する避難所である。大雨警報や線状降水帯の予報等を踏まえ、明るいうちに早めに開設する方針であり、開設時には市職員を最低2名配置するとの説明があった。

同施設では、カフェ、作業所、2階会議室など複数の空間を活用して避難者を受け入れてきた実績があり、過去には最大52名が避難している。また、市により自家発電設備が設置され、72時間の電力供給が可能である。ただし、供給エリアは一部に限られる。

また、一般避難者分の食料等については市の対応が必要であることから、施設側との役割分担を明確にしておく必要がある。

天城湯ヶ島コミュニティ複合施設市民活動センター体育館は、収容可能人数が約240人であり、令和元年台風19号時には114人が避難した実績がある。施設の状態は比較的良好で、今後も避難所として活用していくとの説明があった。

同施設では、体育館の大空間に加え、コミュニティ施設や個室的に利用できる空間を状況に応じて活用することが可能である。女性、子育て世代、高齢者、体調不良者等への配慮を行う上では、こうした区切られた空間の活用が有効である。一方で、避難所運営は派遣される職員の経験や判断に左右される面もあるため、平常時からの訓練やレイアウト確認が必要である。

3・課題

今回の視察により、風水害時の短期避難については、各施設とも一定程度対応可能であることを確認した。一方で、**大規模地震や長期避難**を想定した場合には、次の課題が認められた。

- ①施設の老朽化への対応で、特に旧大東小学校体育館については、修繕費用や今後の施設活用方針を踏まえ、避難所機能をどのように維持するか検討が必要である。
- ②避難所内の空間利用として、体育館のような大空間は多人数を収容できる反面、プライバシー確保、要配慮者対応、感染症対策等に課題がある。長期避難を見据え、個室の空間や区画の確保をあらかじめ想定しておく必要がある。
- ③避難所運営体制として、市職員のみで避難所の開設・運営を担うことには限界があり、地域住民が主体的に関わる体制づくりが重要である。説明では、避難所運営補助員制度、防災士、伊豆市防災指導員等を活用し、必要なレクチャーを行いながら体制整備を進める考えが示された。
- ④地域によっては、公民館や民間施設など、災害時に一時的な避難先となり得る施設が存在する。これらについては、土砂災害警戒区域等の立地条件も含め、安全性を確認しながら実態把握を進める必要がある。

総務経済委員会所管事務調査報告書

令和 8年 5月 14日

実施日時	令和8年5月14日(木) 午前8時30分 ~ 11時30分
参加者氏名	総務経済委員会委員 間野 みどり
用務先	① 旧大東小体育館 ② 校舎 ③ 八岳コミュニティセンター ④ ふらっと月ヶ瀬 ⑤ 市民活動センター(旧湯ヶ島小体育館)
対応者 (研修先講師等)	伊豆市危機管理課 各施設担当課
目的	市内指定避難所を調査し、現状や今後の課題を考え、市民にとって何が大きかを議員活動の中で考えていく。
成果・所感	<p>本日、調査した4施設はとても良く出来ているもの、まだ課題のあるものと、それぞれの特徴がありました。</p> <p>①② 旧大東小学校体育館は、雨漏りをしている箇所もあるようですが、修理には多額な予算が必要となるため、他の部屋を活用することでした。</p> <p>③ 八岳コミュニティセンターは、市民の方が安心して利用できる状況でありました。</p> <p>④ ふらっと月ヶ瀬は、施設等の利用に際し不備な点は見受けられませんでした。</p> <p>⑤ 市民活動センターは、課題点も顕著にあり、今後考えていく必要があると思いました。</p> <p>調査した施設については、利活用状況や費用対効果等を考えて、課題解決に対応することが大切だと思いました。また、今後の議員活動において参考にしていきたいと思います。</p>

所管事務調査における市内指定避難所の視察について

総務経済委員会

三田忠男

1. 初めに

いつも感じる、住民と行政の違和感は、言葉の定義、理解の差である。

今回も、「指定緊急避難場所」「指定避難所」「自主避難」「福祉避難所」等々が出てくるが、これらの定義、理解の差によって、行政の避難勧告・指示が出てても行動に差が出てしまうように感じます。

2. 調査を終えて

地区住民と行政の日頃からの意思疎通が図れていないと、避難所の場所、設備、運営等に行き違いが生じ、現場での混乱に拍車をかけてしまうと思いました。防災は、伊豆市行政の、住民の重要課題です。一体間の醸成が重要な意味を持つと思いました。

3. 具体的には

説明を聞き、視察の結果、

- ① 大東地区の体育館は、早急に地区住民と協議の場をもうけ、地域の実情に合った解決策を模索していただきたいと思います。その結果が、大規模修理するか、しなやか決まると思います。
- ② 八岳コミュニティセンターは、今後の運用を住民とともに協議していただきたい。
日常からの使い勝手の良さを発揮したものだと思います。また、八岳集会所とのすみわけ等の違い、共通点等の提示も必要と思います。
- ③ 避難場所の一人当たりの面積の3.3㎡は、息苦しさを感ずる面積だと思います。その日の避難時はよいが、翌日からは、可能な個々の実情に合った面積・場所等は配慮の必要性を感じます。
- ④ いずれにしても、伊豆市の総合力が防災に反映されると思いますので、日ごろから行政、議会、住民との一体感の醸成努めていく必要を感じた視察でした。

総務経済委員会所管事務調査報告

市内指定避難所の視察について

総務経済委員会 小長谷順二

指定避難所は、災害の危険性があり避難した住民等が、災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを目的とした施設

	施設名	収容可能人数	台風 19 号避難者数
1	旧大東小学校体育館	267 人	30 人
2	八岳コミュニティセンター	36 人	44 人
3	ふらっと月ヶ瀬	198 人	52 人
4	天城湯ヶ島コミュニティ複合施設 市民活動センター 体育館	242 人	114 人

1. 旧大東小学校体育館

地域から改修要望が出ているため現地を確認しました。耐震性には大きな問題は見られませんでした。雨漏りが非常に多く、館内には多数のバケツが置かれている状況でした。

また、エアコン設置の要望もありますが、老朽化した体育館への設置には課題があります。現在、約 10 団体が利用しており、地域住民の利用を考えると雨漏りへの対応は必要だと感じます。しかし、約 2,500 万円の改修費用が大きな課題となっています。

一方で、体育館 2 階には広い空きスペースがあり、旧大東小学校 3 階と合わせて、避難所機能を分散して活用することも検討できると感じました。避難所としてだけでなく、複合的な活用方法が見つかれば、改修の可能性も広がると考えます。

2. 八岳コミュニティセンター

旧八岳小学校のコンピューター棟を改修して整備された新しい施設で、避難所と地域住民の交流の場を兼ねています。グラウンドには地域づくり協議会の協力により芝生が整備されており、地域住民の憩いの場として活用されることを期待しています。

3. ふらっと月ヶ瀬

天城デイサービス、こども園、就労施設プラム、プラムカフェなどで構成される複合施設で、年間を通じて運動会や夏祭りなど地域交流の場として利用されています。

子育て支援、高齢者福祉、障がい者福祉に加え、有事の際には避難所としても機能する大変優れた施設であり、伊豆市が全国に誇れる施設の一つであると感じました。

4. 市民活動センター体育館

耐震化が行われており、普段は地域の体育館として利用されるほか、災害時には避難所として活用されています。また、天城湯ヶ島市民活動支援センターのグラウンドには芝生が整備されており、地域住民の利用やイベント開催など、地域の交流拠点として活用されています。